

# 北海道医歌人会詠草

辞世

札幌 山口 康徳

ガラシャの辞世引用し自らの意気披露する  
トップのころは

心なき言聞き流し次期そなへきびしく鍛ふ選  
手ら健気

長き日々頭仰へし暗雲去りて初夏の草木ら歡  
喜の声あぐ

次の次期競技拳手せる二大都市国の内外息の  
め凝視む

マイセンゆ遠路来りし華麗磁器日華の影響か  
なり受くとか

悼田畑武夫先生

札幌 小国 孝徳

ニューギニアに共に命を拾ひたる田畑軍医大  
尉よ噫九十七歳

十期生の最後の一人とも聞けりニューギニア  
生き残りの君も逝きたり

野戦病院に新米軍医吾らマラリアなど熱帯医  
学を教はりたりき

日母大会に君を助けて働けり思ひ出づればす  
でに茫茫

「おぎゃあ献金」携へてかの施設を訪ひにけ  
る田畑会長井上理事亡し吾のみ残る

余生

札幌 古屋 統

背負い抱く双子の孫の子守婆妻は余生をこ  
こに盡して

週末の買出し量が嬰兒らの裸強のサイズに追  
われて増える

三月はや姿勢反射の芽生あり爺の腕より寝籠  
に移る

わが娘産みたる孫のその面輪似るはまさしく  
父方の祖父

父方の祖父母に似たる孫達を抱き眠らせて我  
れは外祖父

夏

帯広 中野 知弘

蒼古たる笑うかべつつ十分の一税納むバク  
ス・ロマーナ

カエサルや又ハンニバルの会心の一戦に酔ふ  
古代ローマ史

励ましと聞き誤りし終戦の勅なりしかな愚か  
中三

斎場に燈はなく弔は三日なければつくかも知  
れず

冷涼の道東も夏ごよみなりやむなく咲きぬ道  
端の花

地球異変

美唄 吉村 誠治

インフルエンザ五月に入りて治まらず学級閉  
鎖今朝も報じたり

新学期にインフルエンザ流行をり地球異変の  
なせるわざなり

温暖化地球異変の進みをり京都議定書実効す  
べし

日照の時間平年の半分と野菜の高値今も続  
きぬ

空知野の春耕おくれ気になれど晴れたる今朝  
の水田は青し

八月の花

札幌 魚住あらた

盛夏よとつとをし想ふけふなるも女郎花はや  
秋は近かしを

けふをしも風光りみて清々しつくづくたりき  
八月の花

けふをしもかばかりの風心地よしつくづくた  
りき朧月夜は

けふをしも草深きとの想ひなく照葉すがし草  
紅葉ばな

けふをしも秋思はなくも月冴ゆる暑氣払い  
つゝ熟たりき